

検討会の論点と 前回の委員意見について

平成29年11月20日
国土交通省国土政策局

【論点1】 経済・産業構造や、人々の暮らし、価値観等が今後大きく変わっていく中で、リニアやその他の高速交通ネットワーク（新幹線、高速道路、航空等）等の整備によって、交流・対流に要する時間の劇的な短縮が、ビジネススタイルやライフスタイルにどのような影響を及ぼす可能性があるのか。

- ① 経済・産業や、人々の暮らしのスタイルや、価値観は、リニアの整備が進む中長期間に、どう変化する可能性があるのか。その変化において、人の移動に要する時間が短縮することの意味は何か。
- ② リニアの開業及びその他の高速交通ネットワークの整備によって、例えば、次の点にどのような可能性があるのか。
 - ・ 新たな価値創造、研究開発、生産方法、働き方、取引関係の拡大、人材の獲得や育成方法などにどのような変化を生じさせる可能性があるのか。
 - ・ 大都市部の高齢者の生きがいや、若者・中高年齢者の自己実現や観光・娯楽・癒しなどに対するニーズの増大等、暮らしの質の充実や、そのための新たなビジネスなどに、どのような可能性があるのか。
 - ・ 海外から人や投資を引きつける国際的な魅力の向上について、どのような可能性があるのか。
- ③ 新たな交通サービスや交通基盤、都市環境などにどのようなことが望まれるか。

※上記について、ゲストスピーカーの意見を伺う。

※尚、リニア開業の見通しは、東京-名古屋間が、2027年頃、東京-大阪間の開業が、2045年頃から最大8年間前倒しと想定されている。

上記に加えて、

リニアによって生じる時空間的な人口の増大や、産業の集積、知の対流の活発化等による経済効果について、可能な限り定量的な分析を行う。

【論点2】 論点1において明らかにされるリニア等の整備効果を「引き出す」ために、各地で共通して取り組むべきことは何か。

- ①企業、大学や研究機関等の交流・対流を促進し、イノベーションの創出につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。
- ②大都市部の高齢者の生きがいづくりなど、暮らしの質の向上に対するニーズに対応し、これを新たな価値創造やビジネスの拡大につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。（セカンドライフにおける新しい幸福を創出するにはどのようにすべきか。）
- ③地域の文化・伝統を引き出し、新たな価値創造につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。
- ④海外の人と投資を引き付ける魅力ある地域づくりにつなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。また、海外への情報発信、ニーズの把握はどうすべきか。

【論点3】 論点2を踏まえ、論点1において明らかにされる効果を「引き出す」ための国土デザイン、地域デザインの基本的方向をどう設定すべきか。

- ①三大都市圏の地域づくりで目指すべき基本的な方向はどう設定すべきか。
- ②中間駅を中心とする地域の地域づくりで目指すべき基本的な方向はどう設定すべきか。特に、プロモーションや地域ブランディングなどを進めていくためには、どのような要素に着目すべきか。
- ③リニアの効果を全国に拡大するための方策は何か。特に、インフラの質の向上、進化の基本的方向はどうあるべきか。

【経済産業省 話題提供「第四次産業革命の進展と産業就労構造の変化」についての意見】

- (1) IoTやAIは生産現場において人間の役割を変える一方、代替が難しいクリエイティブな人材にとってはフェイス・トゥ・フェイスの交流が大事であり、リニアは重要なインフラとなるのではないか。
- (2) 年齢別人口で見える課題は、スーパー・メガリージョン構想の中心を担う三大都市圏の高齢者人口増率が高いこと。IoTやAI等新しい技術の活用が主体となるだろうが、百歳までの労働やその雇用のあり方について、これからのビジネスを真剣に考える必要がある。また、高齢化は近隣アジアの国々でも進む。日本のシルバ産業は有力な輸出産業となるのではないか。
- (3) ネットワークの広がりにより様々な産業が結びつく可能性は、スーパー・メガリージョンの大きな役割。高齢者であっても短時間で大きな貢献をすれば、大きな付加価値を生みだせる。副業や兼業、ジョブ型雇用のように就業の柔軟性が増せば、個人のライフスタイルも多様化する。
- (4) IoTやAI等によって多くの仕事がリプレイスされると、非常にクリエイティブな仕事か、機械ではできない動作や心の動きなど機微な労働の質が要求されるようなものになり、多くの雇用の受け皿となっていた一般的な職種が失われていく恐れもあるのではないか。
- (5) 教えられたことを正確にやるような仕事など、人に代わってAIが担う存在となるのであれば、人はその人らしく「好き」なことができるようになるのではないか。シリコンバレー等は、まさに「これが好き、これをやりたい」という起業家のエネルギーに支えられている。人が人らしく「好き」に集中できる、制約の少ない社会に向かってビジョンを描いていければ良いと考える。

【農林水産省 話題提供「田園回帰と農村の新たな価値」についての意見】

- (1) 自然や風土は、ポジティブな意味で、日本の独自性であり、Society 5.0にプラスして、日本の強みになる。また、体験で価値を発揮することではリニアのような交通機関がその強みの一つとなる。
- (2) 海外観光客の中には田植えや稲刈り等の体験ニーズが多くあるものの事業ノウハウがない。伝統的な農業のあり方も大切だが、新しい技術やビジネスによりフロンティアを広げる活動に注目すべき。
- (3) Society 5.0時代こそ一次産業の意味は高まるのではないか。相模原市は、都市労働者中心のベッドタウンで、食料自給率ほぼ0だが、多くの大学研究機関が隣接するイノベーション先進地であり、農村地域とリニアでつながる場所として重要になるのではないか。

【全体を通じての意見】

- (1) リニアによって中間駅は大都市圏に隣接するようになり、そのライフスタイルの影響を受けるようになる。これまで新幹線開業効果として、沿線の地方都市に企業立地が進んだ印象がある。飯田市には航空宇宙分野の部品メーカーが集積しつつあるが、リニア駅開業でより大きな変化が生じるのではないか。これはスーパー・メガリージョンによって生じる変化の一つであり、このような新しいエリアが日本の人口増加の一極になっていくとよい。
- (2) 両省の説明は、技術や地域の空間を変えていく話であるが、そこにある「人」のあり方について検討するところが重要なポイントである。中間駅について、緑豊かな環境を生かした定住型住宅が広がるイメージのほか都市居住者の一時滞在場所として農や食を提供する拠点となっていくような、二つの方向性があると思う。